



社会福祉法人千歳会
左敬真理事長

福祉連携、今後のカギ

訪問介護やデイサービス事業「いきいきららふ」を起業後、社会福祉法人千歳会（千葉県千葉市）の経営を承継した左敬真理事長。社福の役割を最大化するためには、トップの姿勢と職員の教育が重要と捉える。社福2法人で社会福祉連携推進法人を今年度内に設立する計画だ。

注目企業名鑑 リーダーインタビュー

なぜ社福の承継を

左 社福は可能性にあふれた存在。株主がおらず税制優遇があり、安定して「0から1」で新しい事業を起こすのに非常に向いている。一方、公益性への社会的責任がある。

る。過疎地でのサービス提供など非生産部門も率先して担う。こうした歴史ある法人群が、経営面で悩みを抱えている。若い世代として解決策を提示できればと思った。

左 売切り切れたら閉店し機会損失を生むラーメン屋は家業。翌日から売り切れない工夫をするコンビニエンスストアは企業。社福は企業でなければ、職員も未来が見えずついてこない。

左 特養は稼働率100%でようやく採算が取れる。定員100名で稼働率が99%でも、1ベッドが空けば月に約30万円、年間約360万円の損失。公的資金で整備された1ベッドが空けば、今この瞬間に施設介護を受ける生産性への意識も必要

特養100%稼働は大前提

だ。千歳会での「生産性向上」とは、法人の利益増加にともなう職員一人ひとりの給与の上り幅。5人分の仕事を4人でできれば、1人分の給与を4分割して配分できる。当法人の介護職員の平均年収は460万円と、全国平均と比較しても高い水準になりつつある。社福の給与水準は経営努力



▲特養「ちとせ稲毛」外観

と職員の意識改革で引き上げられる。

左 社福の生き残り策は理。理事長はコストに気をつけてはならない。仮に理事長の年収が1000万円なら、職員400人の法人の場合職員1人がその400分の1を負担していることになる。

社福は今後、他法人と連携しなければ生き残れない。特養は主要な加算を全て取得して初めて利益が出る。当法人では100名定員の特養で年間約5000万円、収支差率にして2〜3%は確保している。社福連携を足掛かりに、ノウハウを業界全体に広げたい。